

## 情勢報告（平成28年 3月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

### JA土佐くろしおサイインゲン部会勉強会



2月22日、中土佐町久礼でJA土佐くろしおサイインゲン部会を対象に『天敵』と『環境制御』に関する勉強会を行い、10名が参加しました。

『天敵』については、専門技術員からタバコカスミカメの他品目での利用状況、利用上のメリット、デメリットについて説明しました。

農業改良普及課は、『環境制御』のうちハウス内環境の『見える化』について光・温度・CO<sub>2</sub>を中心に説明しました。参加者から、天敵の生態や害虫防除に必要な頭数について積極的な質問があり、活気ある意見交換の場となりました。その後、実証ほ場へ移動し、ハウス内環境の『見える化』を行うことによって栽培管理がどう変化するか実際に確認してもらいました。

今後も『天敵利用』、『見える化』に興味を持ってもらう勉強会を続けていきます。

### 実証ほの調査データを活用した「ミョウガ勉強会」の開催



3月2日、JA土佐くろしおミョウガ部会役員や実証農家を対象にミョウガ勉強会を開催し、16名が参加しました。

農業改良普及課は「12月定植における温度、湿度、日射が収量・生育に及ぼす影響」というテーマで、調査した生育データや温湿度など環境データを基に報告し、意見交換を行ないました。参加者から、出蕾数の推移と収量の関係については、「出荷予測に繋がるのではないかと。継続して調査をして欲しい」という意見が出されました。

今後は、ミョウガ農家全戸を対象に、定期的に勉強会を開催していく予定です。

### 所内研修で普及職員の技術向上



3月14日、須崎市内のミョウガ実証ほ場において現地研修を行い、農業改良普及課職員11名が参加しました。

担当者から、基本的な作物生理や栽培技術、課題について、収集した生育データや環境データを基に説明を受け、意見交換を行ないました。

所内でミョウガ栽培の現状や課題を共有し、解決に向けた動きをともに考えることができたことで、職員の技術向上だけでなく、課題への対応力強化にもなりました。

今後は、ミョウガのみならず、他の品目でも所内研修を行い、農家への対応力を強化していく予定です。

## J A津野山管内担い手農家の個別面談



2月29日、J A津野山において、甘長トウガラシの栽培農家を対象に個別面談を実施しました。

この取り組みは、担い手育成対策として、レンタルハウス導入農家や若手農家を対象に、前作の栽培管理の振り返りや次作の改善方を話し合い、農家毎に目標収量等を設定し関係者で共有することとしています。

農業改良普及課は、前作の現地巡回時の記録を基に栽培管理の問題点や改善点などを提案しました。

今後は、現地巡回指導を中心に目標達成を支援していきます。

## 中土佐町初の集落営農法人設立



2月24日、中土佐町大野見楨野々集会所において、農事組合法人「大野見野の風」の設立総会が開催され、関係者を含め20名が参加しました。

農業改良普及課は、平成27年度の集落営農塾（法人化編）で重点的に支援を行うとともに、関係機関・団体の協力を得て年度内の設立総会に至りました。

今後は、登記や各種届出の作業支援を行うとともに、事業計画の実現に向けた生産指導を行なっていきます。